

厚生労働省 「こども見学デー」を取材して

多くの子供が参加したこども霞が関見学デー

8月1日・2日、都内・霞ヶ関の各府省庁で「こども見学デー」が行われ、私は厚生労働省を訪れました。こども見学デーは、政府の仕事を紹介するための夏休みのイベントで、毎年開催されています。厚労省では、29の団体・メーカーが参加し、社会を広く知るための機会として親子で様々な体験ができるプログラムや展示が用意されていました。

厚生労働省では、「夏だ！試して、遊んで、学べる2日間」のキャッチフレーズのもと、夏休みの自由研究にも役立つ28のプログラムを実施しました。このうち臨床検査関係では、臨床検査振興協議会（日本臨床検査医学会、日本臨床検査専門医会、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査薬協会、日本衛生検査所協会が加盟）が出展したほか、日本ベクトン・ディッキンソンが、抗生物質の適正使用に向けた取り組みを紹介しました。

「臨床検査」を体験しよう

臨床検査振興協議会のブースは、子供たちが臨床検査技師の仕事を体験できるよう、白衣を着て臨床検査を楽しみながら体験できるプログラムが用意されていました。血液検査コーナーでは、血液細胞の働きをパネルで説明し、また顕微鏡を使ったコーナーでは、実際に複数の方々が同時に血液像を観察することが可能で、多くの子供たちや親が観察し、話し合う光景がみられました。

血液細胞を手で触れて感じる事ができるコーナーもあり、血球の形をした消しゴム（シスメックス社が用意）を配布していました。血球は約4000倍に拡大したものだそうです。

他にも大きなモニターを設置、血管壁（ラットの血管だったそうです）に沿って流れる血液細胞の様子を放映していました。メモを取りながら熱心に聞き入る子供たちの目はとても真剣でした。

今回、振興協議会が力を入れていたのが「うんち」をテーマにした便潜血検査体験で、とりわけ子供たちには人気でした。小さな便器に紙粘土で再現した疑似便として、硬便、正常便、水様便が用意されていました。便潜血検査キットにより、便を採取、容器に入れ、転倒混和ののち溶解した検体（便）を反応容器に滴下し判定結果をみました。面白半分に参加したものの、恐る恐る検体を採取する姿は真剣そのものでした。

尿検査のコーナーは、昨年に続き、清涼飲料水を検体に見立て、尿試験紙を使って糖の測定を行いました。便潜血検査、尿検査は栄研化学製の試薬を使用しました。

日臨技専務理事の深澤恵治氏は、今回のイベントを通じて親子の触れ合いを深め、子どもたちが少しでも臨床検査を知る機会とする、という趣旨のもと行っていると話されていました。

このほか、日本ベクトン・ディッキンソンは、薬剤耐性（AMR）の啓発活動を行っていました。人形を用いて咽頭ぬぐい液を採取、インフルエンザ検査キットで判定を行い、インフルエンザには抗生物質ではなく、抗ウイルス薬が有効なことを説明していました。

身近にある臨床検査を知ろう～未来の子供たちに向けて～

今回のイベントを通して、「臨床検査」というあまり馴染みのない領域に触れてもらうことで、子供たちには少しでも身近に感じられる機会になったのではないかと思います。「臨床検査」、それは身近なものであり自分たちの身体の健康を守ってくれる大切なツールだということを、私自身も改めて感じる良いきっかけとなりました。夏休みの自由研究にもなる充実したプログラムであり、臨床検査の理解につながる非常に有意義な時間を過ごすことができたと感じられました。

将来、このイベントに参加した子供たちの中から医療に興味を持ち医療の仕事に就く子が現れるかもしれません。より多くの子供たちが未来に希望を抱き、この臨床検査という世界に興味を持ってもらえればと思います。

（編集部 篠崎 愛）



便潜血検査で便を採取！



深澤氏が子供たちに血液細胞の流れを説明中